

実施項目進捗状況

具体的方策	項目数	実施済・実施中	検討中	中止
1 協働のまちづくりの推進(地方分権の推進)	21	20	1	0
2 情報化の推進	17	12	5	0
3 行財政システムの簡素化・効率化	15	12	2	1
4 定員管理と給与等の適正化	8	7	1	0
5 人材育成と職員の資質向上	8	6	2	0
6 財政の健全化	24	16	8	0
7 公共施設の設置及び管理運営	9	4	5	0
8 広域行政の推進	3	1	2	0
9 地方議会について	3	2	1	0
計	108	80	27	1

委員会を設置し、社会、経済情勢の急激な変化、全国的な少子化の進行、国立大学の再編統合、法人化など、大学を取り巻く状況の変化に対応して、都留文科大学のあり方について総合的に検討し、19年2月に検討委員会より地方独立行政法人化は、本学の改革を進める上で有効な手段であるとの提言を受けました。この提言に基づき、同

年4月に都留文科大学法人化準備委員会を設置し、法人化に向けて準備を進めています。

7 公共施設の設置及び管理運営

○学校給食センターの整備

18年度に大学教員、市議会、小・中学校の保護者、小・中学校の教員、栄養士、関係行政機関の職員、公募による市民の計10人の委員をもって組織する都留市学校給食整備検討委員会を設置し、委員会より既存の2センターとすべての単独調理場を統合した1センター化が望ましい。ただし、用地の制約や財政状況を考慮した場合には、複数センター化も視野に入れて検討すべきであると答申されました。

8 広域行政の推進

○事務の共同処理の推進

山梨県市町村総合事務組合を設立し、印鑑登録証明書、住民票の写し、所得証明書、土地・家屋証明、納税証明書などの電子申請システムの共同開発を図り、単独での開発に比べて大幅な経費削減が図られました。

9 地方議会について

○議会議事録のホームページ公開

行政情報を提供し、市民参加意識の充実を図るため、検索機能を設けた議会の会議録をホームページに公開しています。



最近「人間関係をうまくつくることのできない」「気持ちを素直に表現できない」など、日常のコミュニケーションに困難を感じる子どもが増えていると言われます。

近年、子どもたちを取り巻く社会は大きく変化し、私たち大人が子どもだつたころとは随分違ってきています。仕事に忙しい大人、塾や習い事に忙しい子ども、家庭生活の個室化、少子化や遊びの内容の変化、自然体験の減少など、様々な変化が感じられます。そのため、親子での会話も集団での遊びも少なくなつてしまい、コミュニケーションを学ぶ機会が減少しているのではないのでしょうか。

今年8月、中央教育審議会も、自分の考えを文章や言葉で表現する「言語力」を全教科で育成していくという基本方針を発表しました。言語力の習得を通じ、子どもたちのコミュニケーション能力を向上させることも目指したいとしています。

さて、家庭ではどんなことを心がければよいでしょうか。一番大切なことはやはり、子どもと接する時間をとる

努力をし、会話をすることだと思えます。ただし、気を付けなければいけないのは、その内容のようです。精神科医で「一〇代からの子育てハッピーアドバイザー」の著者である明橋大二先生は「甘えない人間が自立するのではなく、十分に甘えた人間が自立するのです。そのためには、子どもの自己評価を育むことです」と書いています。

忙しさのため、ゆっくり話も聞かずに、頭ごなしに否定したり叱咤激励したりすることでは、子どもの心はどんどん離れ、コミュニケーションがとれなくなってしまう原因となります。時間と心の余裕を持るとよいですね。

最後に、明橋大二先生が提唱している「一〇代の子どもに接する十カ条」を紹介します。◇子どもを大人の力で変えようという思いは捨てて、肩の力を抜こう。◇「どうして〇〇しないのか」という子どもへの不平不満を捨てよう。◇「今、現にある子どもをよき、子どもなりのがんばりを認めよう。◇子どもへの指示、命令、干渉をやめよう。◇子どもから話をしてきたときは、忙しくても、しっかり聞こう。◇子どもとの約束は守ろう。◇子どもに本当に悪いことをしたときは、率直に謝ろう。◇威嚇や暴言、体罰で、子どもを動かそうという思いを捨てよう。◇本心に心配なことは、きちんと向き合つて、しっかり注意しよう。◇子どもになるべく「ありがとう」と言おう。

毎月第1日曜日は「家庭の日」
毎月第3日曜日は「青少年を育む日」

青少年育成都留市民会議
編集委員